

たかぶくの まちづくり

No.43

協議会
広報紙

高
原
の
人
口

世帯数	2,927戸
人 口	7,574人
男 女	3,709人
	3,865人
	R8.6.1 現在



目次

- p2 … 令和7年度決算、令和8年度予算
- p3 … 歴史講演会、視察研修
- p4～5 … 田んぼアート
- p6 … 高原まめ知識、防災力UPミニ講座ほか

令和8年度のまちづくり協議会がスタートしました

4月24日(金)、高椋コミュニティセンターにおいて、令和8年度のたかむくのまちづくり協議会総会が開催され、前年度の決算報告と、今年度の予算が承認されました。

地域の活性化と住みよいまちづくりに向けた取り組みを進めています。9月に開催予定のふれあいまつりは高椋地区においての最大のイベントです。今年も大いに盛り上げたいと思いますので、みなさんのご参加をお待ちしております。



役員名簿

会長	金崎 昭雄
区長会長	杉本 達夫
(まち協) 副会長	武田 正治
(まち協) 副会長	乙部 敏郎
副会長兼あんしん部会長	上田 茂宏
副会長兼ふれあい部会長	林 義徳
副会長兼歴史文化部会長	辻 晃市
会計	種田 豊秋
事務局長	上野 清美
監事	高橋 哲夫
監事(R8 区長)	白藤 則高

歴史文化部会

6月13日(土) 歴史講演会 「最盛期の長崎称念寺」 鎌倉時代の成立から室町時代の繁栄まで～

歴史文化部会による歴史講演会を開催し、22名が参加しました。講師には龍翔博物館学芸員の大廣克也氏を迎え、「最盛期の長崎称念寺」をテーマに講演いただきました。

講演では、長崎称念寺が一遍の弟子・他阿真教によって創建された歴史をはじめ、寺院の発展の経緯について解説がありました。また称念寺の成り立ちとの意外なつながりや、豊原寺との不思議な関係、室町時代における寺領の広がりなど、資料を紹介され、参加者は地域の歴史への理解を深めました。

参加者からは、地域に残る歴史の奥深さや、当時の暮らしとのつながりを感じられる貴重な機会だったとの声が聞かれました。

次回予告

第2回

9/5(土)
豊原「三千坊」の僧たち

第3回

2/27(土)
一本田の名士・山田敏



6月21日(日) 研修旅行 らくやし 「櫛野寺 秘仏十一面観音見学ツアー」

歴史文化部会の研修旅行を実施し、22名が参加しました。

研修では、滋賀県の福生山 櫛野寺を訪問し、普段は公開される機会の少ない秘仏・十一面観音を見学しました。歴史や文化財としての価値について学びながら、地域に伝わる信仰や寺院の歴史に触れる貴重な機会となりました。

また草津宿本陣も見学し、江戸時代の宿場町の面影を感じながら、当時の人々の暮らしや交通の歴史について理解を深めました。

「実際に現地を訪れることで、歴史を身近に感じることが出来た」「文化財や歴史的建造物の魅力を再発見できた」といった声が多く聞かれ、充実した研修旅行となりました。

歴史文化部会



令和8年度の予算案

(収入)

地区会費	920,000円
市交付金	4,852,900円
寄附金	0円
参加費	300,000円
雑収入	53,425円
繰越金	1,923,675円
合計	8,050,000円

(支出)

会議費	30,000円
事務費	280,000円
総務費	1,896,836円
区長会活動費	1,194,164円
敬老事業費	1,349,000円
地区防災計画推進事業費	650,000円
あんしん部会	500,000円
ふれあい部会	650,000円
歴史文化部会	1,000,000円
センター活動費	150,000円
予備費	350,000円
合計	8,050,000円

令和7年度の決算報告

(収入)

地区会費	927,000円
市交付金	4,813,700円
寄附金	0円
参加費	284,800円
雑収入	62,440円
繰越金	1,834,509円
合計	7,922,449円

(支出)

会議費	24,558円
事務費	266,446円
総務費	1,226,722円
区長会活動費	849,271円
敬老事業費	1,344,250円
地区防災計画推進事業費	529,578円
あんしん部会	237,879円
ふれあい部会	504,663円
歴史文化部会	872,843円
センター活動費	142,564円
予備費	0円
次年度繰越金	1,923,675円
合計	7,922,449円

みんなで力を合わせて

田んぼ作業の様子



みんなで描く
田んぼのキャンパス!



今年も田んぼアートがスタート — 完成を目指して、苗がすくすく成長中 —

5月23日(土)、高椋地区で「田んぼアート」の田植えを行いました。当日は地域の親子連れや田んぼアート有志の皆さん、丸岡高校野球部員など約90人が参加しました。

今年のデザインは、坂井市制施行20周年を記念し、坂井市公式キャラクターの「坂井ほや丸」を採用。参加者は色の異なる苗を手に、協力しながら丁寧に植え付けを進めました。

当日は曇り空で強い風の吹くなかでの作業となりましたが、会場には坂井ほや丸も登場し、子どもたちは大喜び。参加者同士の交流も深まり、会場は笑顔に包まれました。今後、苗の成長とともに田んぼに大きな「坂井ほや丸」の姿が浮かび上がる予定で、完成が待ち遠しいところです。

当日の様子



①開会式

田んぼアートの前に、五穀豊穡を祈る神事が執り行われました。



②田植えスタート

田植えアートが始まり、参加者たちは豊作を願いながら一株ずつ丁寧に苗を植えました。田んぼに少しずつ浮かび上がる様子に訪れた人たちも期待を寄せていました。



会場地図



今年の見どころ

地域の田んぼをキャンパスに見立て、稲の色で描く田んぼアート。季節ごとに表情を変える、田園ならではの景観をお楽しみください。

見頃 8月中旬以降

稲刈り(予定) 9月中旬

「舟寄踊」由来①

元亀元年（一五七〇）七月当時、越前の守護職であった朝倉義景の家臣で黒坂備中守景久が舟寄に館（舟寄館：現 日東シンコー株の敷地内）を構えていました。

北陸地方の平定のために進撃してきた織田信長軍を迎え撃つため、景久は主君の朝倉義景とともに二万三千の兵を引き連れて出陣することになりました。この戦いが有名な姉川（現 滋賀県長浜市）

の戦いです。その出陣の前夜、酒宴が開

かれ、舟寄の集落民が領主の武運長久を祈り士気を鼓舞するために、踊ったのが舟寄踊の始まりと云われています。

その時から今日まで四百五十六年、「舟寄踊」は受け継がれ、昨今は毎年旧盆の八月十五日夜、高松西部コミセン前広場で盛大に踊られています。（平成十六年四月二十日 福井県無形民俗文化財に指定）

（松本盛博・記）



防災力UP!ミニ講座 第16回

高松地区防災計画推進委員会 始動
～地域で支える避難所運営～

高松地区では、令和6～7年に地区防災計画を作成し、令和8年度からは訓練・広報・学習などの活動グループに分かれて、実践的な防災・減災活動を進めます。

近年の災害では、避難所運営のあり方にも変化が求められています。能登半島地震では、女性や要配慮者への対応、支援物資の受け入れ、車中泊への対応など、多くの課題が明らかになりました。避難所は支援を受ける場所であると同時に、地域住民が協力して運営する場所であることが改めて認識されています。

こうした学びを踏まえ、従来のHUG(避難所運営ゲーム)に加え、被災者目線で考えるSUG(避難所運営ゲーム)を体験しました。訓練では、安否確認や要配慮者支援、情報共有などを行いながら、地域住民自身が避難所運営に関わる大切さを学びました。災害時の対応力は、日頃から地域の状況を知り、顔の見える関係づくりや役割分担を進めておくことで高まります。避難所は「誰かが運営する場所」ではなく、「みんなで支える場所」です。地域全体で防災力を高めていきましょう。

（防災士 吉田幸憲）

【SUGとは？】

被災者の立場で避難所を考える訓練です。「困っている人はいないか」「必要な支援はないか」を話し合い、支え合う避難所運営を学びます。避難する人の目線を取り入れることが、安心できる避難所づくりにつながります。



坂井市行政放送番組

放送チャンネル

ケーブルテレビ コミュニティチャンネル
福井(さかい)ケーブルテレビ 91ch
「しりとり散歩 あっちこつちさかい」

放送期間

7月1日(水)～7月31日(金)



YouTube坂井市
公式チャンネル

ふくい桜マラソン2027
「地元ランナー」をご招待

- 開催日 令和9年3月28日(日)
- 招待種目 マラソン(42.195km)
- 定員 3名(申し込み多数の場合は抽選)
- 参加費 無料(交通費・宿泊費は自己負担)
- 参加資格 満18歳以上(大会当日時点)で、対象地区の自治会に加入されている方
- 申込締切 令和8年8月21日(金)

編集後記

私の住む地区では、四月から十月まで公園や堤防の草刈りを行います。若いころからエンジン式草刈り機の担当をしているのですが、最近は一時間ほど作業すると、手腕のしびれが丸一日とれなくなってきました。もうすぐ還暦を迎える今日この頃、老いを感じてきているところです。(まち協ではまた若い衆かもしれないが)

(K・U)

